

III 海外だより

フランスのニューメディア事情 —— ミニテルについて ——

NLI INTERNATIONAL FRANCE S.A. 浅岡 恵美

はじめに

ファッション、ワインと美食、そして芸術の国フランス……この国の豊かな文化を賞賛する形容句は多い。しかし、フランスがニューメディア分野においても、世界で他に例を見ない成功を納めている国であることを知る人は少ないのではないだろうか。この国では電話回線を使用したミニテルと呼ばれるニューメディアが普及しており、種々の情報やサービスの引き出しが家庭や企業で一般的に行われている。

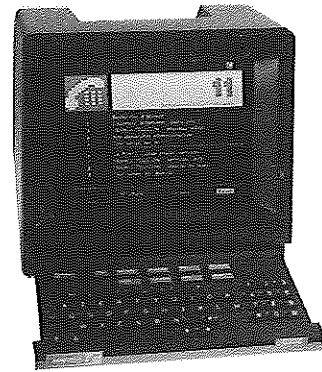
日本ではキャプテンシステムが1984年から実用化されているが、一般大衆化しているとは言い難く、NTTは新たにファミコンを利用した大規模な情報通信網の開発を構想している。高度情報化社会を構築するニューメディアは、ネットワーク化を遂げた時にその機能を発揮する。この点で、フランスのミニテルは全国規模で一般大衆化に成功した数少ない例として、世界でも注目を浴びている。今回のレポートでは、このミニテルを紹介したい。

1. ミニテルとは

ミニテル端末は20センチ四方の小さなテレビ画面と数字、アルファベット、および幾つかのコマンド機能を備えた鍵盤からなっている(図-1)。この端末はテレテルと呼ばれるフランステレコム(フランス電信電話公社)のシステムと電話回線により接続されており、このシステムを経

由してサービス提供者との交信ができるようになっている。

図-1 ミニテル端末



引き出し可能なサービスは実に一万六千種類のほり、プリンターを接続すれば情報の印刷もできる。各々のサービスに付与されたコードナンバーを入力するだけで、誰でも世界一の量を誇るデータベースから様々な情報を引き出せる点が、ミニテルの特徴である。

ミニテルの機能を分類すると、情報サービス機能、電話帳機能、及び端末間交信機能の3つに大別できる。

(1) 情報サービス機能

ミニテル端末からテレテルシステムへアクセスすると、天気予報やレジャー情報など家庭でも利用することの多い一般情報から、株価動向など企業が利用する専門情報まで、様々な情報を引き出すことができる。さらに単なる情報の引き出しに

表-1 ミニテルの主な情報サービス機能

一般サービス分野	新聞、テレビ等の情報、天気予報、交通情報、住宅情報、消費情報、健康情報、レジャー情報、文化情報、観光案内、宝くじ、交通機関・劇場等のチケット予約
専門サービス分野	EC情報、金融マーケット情報、法律・税金・政治関係情報、産業データ、銀行データベース、ホームバンキング、企業の財務管理、在庫管理

出典：「Le Minitel à votre service.」フランステレコム編

とどまらず、テレビゲームを楽しんだり、劇場のチケットを予約することも可能である（表-1）。

操作方法も簡単である。アクセスしたいサービスのコードナンバーが不明な場合でも、ミニテルサービスガイドと呼ばれる案内画面でキーワードを入力すれば、それに係わるサービスとそのコードナンバーのリストが得られる（図-2）。さらに各サービスの概要照会もできるので、豊富なサービスの中から求めている情報を簡単に検索し、アクセスすることが可能である。

(2) 電話帳機能

電話帳機能では、照会先の名前と地域を指定すれば、該当者の氏名とその住所、電話番号の一覧が画面に引き出せる（図-3）。尚、問い合わせ先は業種等の見出しから検索することも可能である。因みにここフランスでは、電話を設置すると無料でこの電話帳に載せられ、逆に掲載を拒否する場合に毎月一定料金を支払わねばならない。従っ

図-2 ミニテルサービスガイド画面

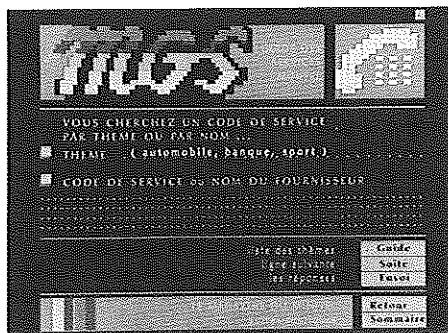
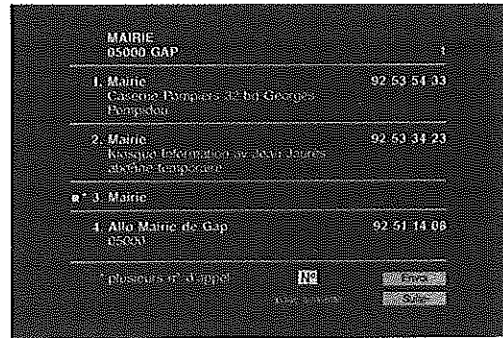


図-3 電話帳画面



て、大方の電話番号はこの電話帳で調べることができる。

(3) 端末間交信機能（ミニコム）

ミニコムと呼ばれる端末間のメッセージ交換は、パスワードを登録した者同士のみが使用できる機能で、最高64行までの伝言が取り扱える。受信済みのメッセージを引き出すには、自分の電話番号とパスワードを入力すればよい。また、メッセージを送る場合は、相手の名前と電話番号を入力すれば、相手が電話中であっても送信できる。知人同士のメッセージ交換や留守番電話としての機能のみでなく、商品の配達および注文など商業レベルでも使用されており、今後更に需要の伸びが期待されている機能である。

2. 発展の過程

ミニテルは導入後わずか10年間で急速に発展し、普及台数は1991年末に587万台を突破、現在電話契約者の5人に1人はミニテルを保有している。今日に至るまでの過程は次の3段階に分けることができる。

(1) 導入まで

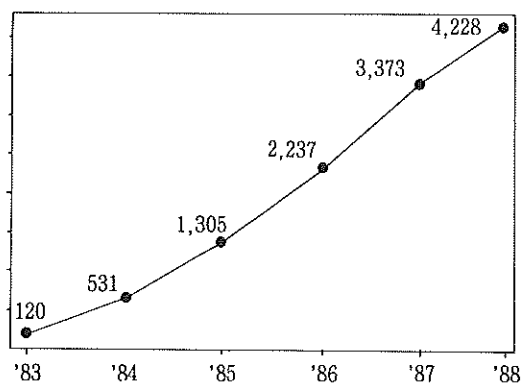
1970年代の後半、高度情報化社会の先駆けとして、ヨーロッパにおいてビデオテックス（電話回線使用による文字図形情報ネットワーク）の開発が盛んに行われた。当時ヨーロッパ他国に比べ電話普及率が非常に低かったフランスでは、電話

普及率の向上と通信産業の振興を目指し、このビデオテックスの開発が政府主導により積極的に行われた。そして1980年には電話帳機能が開発され、フランス北西部のノルマンディー地方で試行された。さらに、1981年にはテレテルシステムが開発され、ミニテルが本格的に導入されるに至った。

(2) ミニテル利用の量的拡大期

図-4に見られる通り、導入後ミニテルは爆発的な勢いで普及し、普及台数は1986年に220万台を超え、1988年には400万台を突破した。

図-4 ミニテル普及台数の伸び



単位：千台、数値は各年末の数値
出典：フランステレコム

他国に見られないこの成功の第一の理由としては、一般大衆向けのニューメディアとして、操作が簡単なミニテル端末をフランステレコムが無料で貸与したことが挙げられる。無料貸与によって、一般大衆がユーザーとして確保される一方、一般大衆による需要が提供サービスの改良と発展を促進した。この結果、ミニテルの普及台数は著しく増加するとともに、回線使用時間も目ざましい伸びをみせた。

ミニテルが普及したもう1つの理由としては、使用料金の精算方法が簡便な点が挙げられる。サービスの提供者と利用者の精算は「キオスク」と呼ばれる方法が用いられている。これは、フランステレコムがミニテルのサービス料金と電話回線使

用料金の合計金額を電話料金としてミニテル利用者に一括請求し、受け取った料金の一部をサービス提供者に納める方法である。従って利用者は個々のサービス提供者との契約、支払い関係はなく、必要なときに、気軽にサービスへアクセスできることとなる。

(3) 専門サービス分野拡大期

1987年頃からミニテルへの需要の質が明らかに変化し始めた。すなわち家庭におけるミニテル利用の伸びが鈍化し、企業による専門サービスの活用が増加傾向にある点である。実際、1990年に行われたアンケートによると、家庭に設置されているミニテルの15%は棚の中で眠っており、使われているミニテルの25%は電話帳機能に留まっているという。

一方、表-2からも読み取れる通り、1987年以降は回線使用回数と回線使用時間の伸びが鈍化する中、回線使用時間中の専門サービスの占率が増加し、1989年以降は50%を越えるようになっている。これは、料金は高いものの、専門家向けに開発された付加価値の高いサービスに対する需要が増加していることを表している。前述のアンケート結果でも、銀行データベースの金融情報や法律、商業情報の利用者層が急激に拡大している。また、単なる情報引出しのみでなく、企業の財務管理や在庫管理のようなサービスにより銀行や取引先とのコンタクトを簡略化できるので、その需要の高まりも専門サービス利用増加の一因である。

表-2 ミニテルの普及とサービス量の変遷

	1985	1986	1987	1988	1989
ミニテル台数 (千台)	1,305	2,237	3,373	4,228	5,062
サービス数	1,899	4,152	7,005	9,578	12,377
回線使用回数 (百万回)	155.6	466.2	807.9	1,010.8	1,243.0
回線使用時間 (百万時間)	13.8	37.5	62.4	73.7	86.5
専門サービス引き出しが回線使用時間に占める割合 (%)	36.3	28.5	34.1	46.0	52.0

出典：ル・モンド紙 (90年2月17日)

表-2に見られる通り毎年二千種以上のサービスが新たに提供されているが、企業活動に直接有効な機能への需要は強く、フランステレコムとしても、今後専門サービスをさらに発展させる意向である。

3. 今後の展望

このように、ミニテルは全国規模で普及し、世界に例を見ない一般大衆向けビデオテックスとしての地位を築いたが、フランステレコムは以下の4点を柱に、さらにミニテルの発展を目指している。

(1) 収支の改善

ミニテルの成功をもたらした端末の無料貸与は、そもそも電話帳にかかる紙と印刷代の節約、無料で行っていた電話番号問合わせにかかる人件費削減の実現により、約10年で採算が合うことを前提としていた。しかし当初の見込み通りは進まず、ミニテル事業の収支赤字という大きな問題を残すに到った。

この収支問題への対応策として、フランステレコムはパスワード機能等が充実した端末「ミニテル2」やポータブル型の「ミニテル5」等、付加機能のある端末を開発し、有料貸出を開始した。その結果、1990年末にはミニテル端末の約15%が賃貸契約となっており、順調に収益を伸ばしている。最近のフランステレコムの見通しでは、1998年には収支が黒字に転じることになっている。

(2) ホームバンキングの充実

既にミニテルによるホームバンキングサービスは提供されているが、一般化しているとは言い難い。例えば銀行振り込みは、銀行にミニテル使用を事前に届け出ている場合に限定されている。しかし公共料金や租税の支払いについてミニテルによる銀行振り込みが進めば、ホームバンキングはか

なり一般化すると考えられ、現在主要銀行と公共機関が共同で検討している。こうした公共料金の振込みについては、年2億フラン（約46億円）程度の需要があると考えられている。

(3) 技術の高度化

専門サービス利用者の需要増加に応え、通信スピードの向上と映像画面の高度化が研究されている。大量の専門情報を引き出す利用者にとっては、通信速度が改善されると、大きな能率アップが期待される。また、映像画面の改良が進むと、これまでの文字と図形による電信システムにとどまらず、今後は写真の送信が可能となる。その結果、不動産物件紹介など映像に訴える分野でのビジネスチャンスが広がることから、需要は大きいと見込まれている。

(4) 海外展開の拡張

ミニテル通信網への海外からのアクセスはここ数年大幅に増加しており、電話帳やファミコン機能、ミニコムへの需要が多い。1990年に「ヨーロッパビデオテックス網の創設に関する合意書」が調印されてからは、ヨーロッパ9カ国とフランスのビデオテックス網が相互接続された。現在ミニテル端末は30か国で認可を受けており、今後も海外からのアクセスは更に増加すると思われる。

一方、ミニテルを海外へ輸出する動きも盛んである。アイルランド、オランダに続き、1991年にはアメリカのUS-WEST社と通信網開発の提携合意がなされ、アメリカ西部14州にミニテル通信網が導入されることとなった。

おわりに

フランスにおけるミニテルは、高度情報化社会におけるニューメディア、とりわけビデオテックスの分野において、新たな一形態を創出し、その潜在マーケット規模の大きさを証明した。またフランス情報産業の活性化にも貢献するとともに、

ニューメディア部門で一万人の雇用創出を実現したと言われており、ミニテル導入によるフランス経済へのインパクトは非常に大きい。ミニテルが今後どのように発展し、また、他国でもどう評価されていくのか、興味深いものである。